

## 第5回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 平成26年12月2日(火) 13:30~15:30

2 場 所 伝国の杜小会議室

3 出席委員

尾形健明会長、安部美和子委員、泉多恵子委員、奥村あい子委員、小野寺忠司委員、佐藤大喜委員、佐藤晃代委員、柴田正孝委員、島津眞一委員、白井裕久委員、鈴木清治委員、清野雅好委員、林宗太郎委員、我妻仁委員 以上14名  
(遠藤秀平委員、大和田浩子委員、小野浩幸委員、白石祥和委員、中嶋朱実委員は欠席)

事務局

総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、水道部長、市病事務局長、

(副市長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長は欠席)

総合政策課 課長、課長補佐、総合計画策定室長、企画調整主査、担当

4 会議録

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

会 長 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。会長挨拶も本日5回目で、私の気持ちは皆様にお伝えしている気もしますので、前回の審議会から本日までに起こったことを一つだけお話しします。去る11月25日に置賜地域行政懇談会が開催されました。米沢市が幹事だったと思いますが、グラウンドホクヨウを会場に懇談会がありました。参加されたメンバーは3市5町の首長と議長、私もメンバーに入っていて、皆どんな考えをもっているのかお聞きしたく参加させていただきました。テーマは「人口減少問題」です。まさに我々審議会にとってはタイムリーな話題であり、とても大事な意見が出てくるだろうと思って聞かせていただきました。結論を申し上げますと、やはり皆様相当深刻に捉えているということが分かりました。そして、米沢市以外の方が話すのは、置賜地域として広域的な取り組みを、米沢が中心となってやってほしいという話でした。日本創成会議の結果から見ますと、2040年に残っている市は、置賜地域では米沢市と長井市になります。2つの市だけが残る形になりますが、それぞれの自治体も相当危機感を感じているようでした。我々がこれからまとめます総合計画はやはり置賜地域をカバーするような形で内容を書き加えることが可能であれば、是非広域という意味で入れておいた方がいいのかなと思ってきたところです。いずれにしましても、本日5回目で、間もなく中間報告ということになりますので、本日はそのたたき台となるような中間意見体系というものを皆さんで審議いただくのがテーマになりますので、時間の許す限りどうぞよろしく願いいたします。

(3) 議事

事務局 審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となることとされております。尾形会長に議長をお願いしたいと存じますのでよろしく願いいたします。

会 長 それでは、議事に入ります。本日の会議につきましては、午後3時半くらいまでには終了したいと考えておりますので、議事の運営につきまして委員の皆様の御協力をお願いいたします。はじめに(1)の有識者インタビュー等の結果についてであります。事務局から説明願います。

事務局 参考資料「新総合計画策定に係る有識者インタビュー報告書」及び参考資料「米沢まちづくりフォーラム提言書」に基づき説明

- 有識者インタビューですが、今回の新総合計画策定にあたり、市内外の有識者（関係団体）の方から幅広い観点から、米沢市の魅力、それぞれの分野の実情や課題、まちづくりへのアイデアなどに関する意見・提案をいただき、計画策定の参考資料とするため実施したものであります。
- インタビューは、市内関係団体 9 団体（産業・金融関係が4団体、教育・地域活動関係が3団体、医療・福祉関係が2団体）のほか、市内出身の首都圏在住者としまして米沢有為会会員の方5名にお願いをしたところであり、報告書の末尾にインタビューをお願いしました方々の一覧を付けさせていただいております。
- インタビューは本年10月14日（火）から10月28日（火）までの期間で行い、「産業の現状、課題、今後の方向性について」、「米沢市の魅力づくり、定住環境、人財育成について」、「市政への意見、まちづくりへの提案」についてお聞きをしたところであり、報告書は、それぞれの項目ごとに御意見御提案を要約して掲載した形でまとめさせていただいたところです。
- 続いて、本日配布いたしました米沢まちづくりフォーラム提言書につきましては、気軽な雰囲気の中、市民にまちづくりへの関心を高めてもらうとともに、これからのまちづくりへの「提言」を市民自身が立案していただくという趣旨のもと、各種団体からの推薦及び市民公募による合計30名の皆さまに参加していただき、平成26年8月29日（金）から平成26年10月30日（木）までに3回開催をし、産業経済分野、教育学習分野、生活環境分野、健康福祉分野、社会基盤分野の5つの分野毎に「市民提言」をとりまとめていただいたものです。
- この取りまとめました内容につきましては、12月中に第4回目を開催し、市長にお渡しする予定としております。
- これらの、インタビュー、提言書につきましては、審議会におきましては、参考資料として御活用いただくとともに、今後事務局で計画の素案等を作成する際の参考資料とさせていただくこととしております。

会 長 ありがとうございます。御質問等ございますか。

委 員 （特になし）

会 長 もし御質問等あればその他の審議で御発言いただければと思います。次に(2)の中間意見の体系（案）についてであります。事務局から説明願います。

事務局 資料1「中間意見の体系（案）」に基づき説明

- 資料の構成としましては、1ページには、前回まで出された御意見に基づき、中間意見（案）の全体構成の体系を事務局でまとめたものとなります。

- 2ページから5ページまでは、4つの柱ごとに、これまでの審議会の御意見踏まえ、それぞれの課題と方向性を一番上の欄にまとめさせていただいたところ  
です。
- 6ページは、今回の御審議を踏まえて、次回お示しする予定としております、  
中間意見の項目案となっております。
- この項目案に沿いまして、今回の御審議の結果を踏まえた意見書案を事務局で  
取りまとめたいと考えております。
- 1ページの全体構成につきましては、6ページ目にお示しをしております中間  
意見の項目案の2の米沢市の目指すまちの姿に該当するものとしまして、これ  
までの委員の皆様から出されました御意見を
  - ・ 経済が発展しており、活気と賑わいにあふれている
  - ・ 市民が郷土への誇り、幸福感を抱いている
  - ・ 自然・文化・歴史が継承された都市を形成している
  - ・ 子育てしやすい環境と健康長寿が実現している
 の4つにまとめさせていただいて1番上の囲みの中にお示ししているところ  
です。
- この4つの要件を満たし「市民が魅力を感じるまちづくり」を進めるための分  
野別の方向性としまして、産業振興、人材育成、都市整備、安全安心の4つが  
これまでの御審議の中で出されましたことから、これらを「挑戦し続ける活力  
ある産業のまち」、「郷土を創る人材が育つ教育文化のまち」、「自然・人・都市  
の魅力が調和するまち」、「健やかな育ちと安心な暮らしを支え合うまち」の4  
つの柱として提示させていただいたところであり、これら4つの柱の取組を相  
互に連携しながら推進し、定住人口の確保を進めていくものであります。
- 2ページ以降は、柱1「挑戦し続ける活力ある産業のまち」から柱4「健やか  
な育ちと安心な暮らしを支え合うまち」の柱ごとにそれぞれ1枚にまとめさせ  
ていただき、これまで審議会でお出しいただいた御意見につきましては、それ  
ぞれのページの「まちづくりへの意見整理欄」に項目ごとに整理をさせていただ  
きお出ししているところであます。
- この意見整理欄の内容を踏まえまして、各柱の基本となる課題と方向性を一番  
上にまとめさせていただいているところであります。
- 柱1の「挑戦し続ける活力ある産業のまち」を例にして御説明しますと、現況  
としまして、地域間、国際間での競争が高まった結果、ものづくり企業の付加  
価値が減少し、雇用形態が変化していることと、人口減少と少子高齢化の進展  
に伴い、産業を支える労働力人口が不足し、地域経済が縮小していく傾向にあ  
ることの2つを事務局案として挙げさせていただいているところであり、方向  
性としましては、既成の価値観から発想を転換した付加価値率の高い研究開発  
型の内発型産業を誘発させるなど新しい産業やサービスを継続的に生み出し  
ていくことと、女性、高齢者、障がい者等が生き活きと働ける環境整備や交流  
人口の拡大により地域経済の活性化を図っていくことの2つを挙げさせてい  
ただいているところであります。

- 柱2の「郷土を創る人材が育つ教育文化のまち」以降につきましても、それぞれ同様に課題と方向性を一番上にまとめさせていただいているところであり  
ます。
- この一番上にまとめさせていただいている柱ごとの課題と方向性は、6ページ目にお示しをしております中間意見の項目案の3の「米沢市のまちづくりの方向性」を、「目指すまちの姿」を実現するための分野ごとにおける現況や課題と、その対応の方向性（核となる施策）としてまとめる際の基本的な考えとなることから、本日の御審議は、この柱1から柱4までの課題と方向性について、柱ごとに大局的な観点から過不足等がないかについて御審議をいただくようお願いをするものですのでよろしくお願いいたします。

会 長     ありがとうございます。それでは委員の皆様から最初に柱1に過不足がないかの御意見をいただきたいと思います。本日は自由に発言していただきたいと思いますので、挙手をして御発言をお願いします。

委 員     今の御提案だと、課題と方向性についてお話を申し上げればいいのか。その下のまちづくりへの意見整理についてのコメントはないのでしょうか。

事務局     課題と方向性もお聞きしたいところですが、意見整理の中で、目指すもの・具体的将来像は合わせて御意見を頂戴したいと思います。中間意見の中ではキーポイントとなると思いますので、こちらについても御意見を頂戴したいと存じます。

会 長     それでは目指すもの・具体的将来像についても合わせて御検討いただければと思います。

委 員     柱1の中で、農業分野の「目指すもの・具体的将来像」として4つあるのですが、この中には「施策での取り組み・方向性」にあるように、担い手、労働力の確保とあるわけですので、新規農業への参入を力強く後押ししていくテーマを設けていただければと思います。また、柱1の「方向性」の中に交流人口の拡大によって地域経済の活性化を図っていくと書いてありますが、ここでいう交流人口はいわゆる滞在型を含めた観光交流人口だと思います。交流人口と言うと、流動的なイメージがあるので、新たに移住する人を広げていく「定住」も入れていただければと思います。もう一つ、「方向性」の中にある、女性、高齢者、障がい者等が生き生きと働ける環境整備は必要だと思います。しかし、雇用の「目指すもの・具体的将来像」の他にも商業や工業・観光・農業・総合的産業振興に女性の活躍は必要なので、その視点も入れていただきたい。

会 長     女性は「雇用」にしか出てこないもので、他の項目にも反映することが必要かと思いますが。交流人口の解釈の問題もあると思います。他に御意見ありますか。

委 員     雇用口の減少という課題はないのでしょうか。また、「方向性」にある女性、高齢者、障がい者の文言だけでは物足りなく感じます。若い人たちの働く環境整備というと女性に限らず、「多くの市民」や「若者」といった、範囲を広げた方向性にした方がいいのかなと思います。

会 長     女性、高齢者、障がい者等をむしろ「市民」と一括りにしてしまう方法もありますね。これに対して他の委員で御意見ありますか。

委 員     私もその意見に賛成です。これまでの審議会の経過を見ると、若い人が仕事に

やりがいや充実感を持って就労できる環境を作ることで若年層の市外への流出を防ぎ、米沢にいても全国や世界を相手に仕事ができ、自分の仕事に誇りを持てるように積極的に取り組んでいく、そのためには、先駆的な山形大学工学部の力を借りて雇用を創出していこうというのが今までの流れだったと思うので、積極的に若者層に対する就労支援や、やりがいのある仕事の創出をきちんと打ち出したほうが良いと思います。女性と高齢者と障がい者が生き活きと働ける環境整備というのは、今までもやってきたことですし、今回のカラーとして打ち出したのはそこではなく、若者層の支持を得られるようにポイントを絞って、大都市から離れた米沢でも働ける環境整備をしてあげることが若者に対して今できることだと思うので、ここは若者層の表現を文言として入れていただきたいと思います。

会 長 今の発言に対して御意見ございますか。

委 員 女性という一括りで表示されていますが、2040年に米沢の若年女性と言われる人口を増やせる年代が半減すると言われていています。人口を増やして活性化をするという観点におけば、若年女性が増加しなければ人口も増えないので、女性という一括りの表現がいいかどうか分かりませんが、若年女性が増加して、活躍できる場所というのが大切だと思います。

会 長 いくつかキーワードが出てきました。若者というだけではなく若年女性という表現もキーワードになってくるということですから、単に女性、高齢者、障がい者等だけではなく、若者、若年女性を入れてみたらいかがでしょうか。これで整理していただくことに対して皆さまよろしいでしょうか。

委 員 市長も12月1日号の広報に初バルやまちゼミのことを書いておりましたが、バルやまちゼミ、愛の商品券等商店街は活発に動いております。先週開催された初バルは凄まじい賑わいでした。いまだかつてこれほど街中に人が出たことがあるだろうかというくらいの人がいきました。タクシーにもしばらく乗れない状態でした。この日、市内の若年層は街中へ集まりました。また、先日の日曜日（11月30日）に愛の商品券を発売しましたが、お昼過ぎには完売しました。ここからも分かる通り、市民は消費購買力もあります。若者も仕掛けがあれば動きまわります。こういった具体的なことを念頭に置いたうえで、施策での取り組みで書いてある、地元商店街への加入促進がなぜ必要かと言いますと、先ほど申し上げた取り組みをしているのが商店街連盟だからなのです。外部から来た事業所もその大きな会社のシステムでやるだけではなく、地域コミュニティの中で一緒に活動を協同化していただかないと、大企業と地元企業が二層になってしまいます。人口が減少すれば大型店は撤退するわけですから、再び中心市街地に客足が戻るときには何の店もない状態にしないようにという意味で、次の段階の施策への協働参画という意味合いが大きいのだと思います。それをなくして産業の活性化は厳しいと思います。もう一点、工業において、一部アセンブリの請負が多いと言われていた中で、個人の創業・起業を市と一緒に全力で支援しています。これが足腰の強い産業になるものと信じています。ですが、マザー工場が必要なのです。ユニットで出荷しないと付加価値が増えないわけですので、その部分を工業に入れていただけないかなと思います。また、工業だけではなく、商売を始めたいとい

う人は色々な年齢層におります。市も商工会議所も支援しております。例えばファーストフード店やマイクロビジネスをしたいという人がいます。100万～200万円のマイクロクレジットを組んで、マイクロビジネスをやってみたいという人は若い人にいくらでもいます。その人への支援やアドバイス、資金供給をきちんと整えていかないと、米沢は商売する環境でも住む環境でもないという結論になると思いますので、工業・商業への支援をさらに重層的に入れていただきたいと思います。

会 長 バルの話を聞くと、米沢の若者もそう捨てたものでもないなということですね。ありがたい企画であったと思います。他にございますか。

委 員 工業については基本的にはこの考え方でいいと思います。柱1で掲げている「課題」で、地域間・国際間での競争が高まった結果とありますが、国際間の競争に勝つためにはどうしたらいいかというアプローチが必要だと思います。米沢は田舎だから国際競争に勝ち抜くようなアプローチができないかというのではなく、例えば、グーグルのようにスタンフォード大学を卒業後に会社を作って、5年くらいでマイクロソフトを抜く企業になった事例もあります。今や場所は関係ないのです。アイデアがあつてうまく価値変換が利用できればすばらしい企業が生まれてくるのです。そういった意味では、「施策での取り組み・方向性」にある山形大学工学部の研究シーズの活用だけでなく、置賜地域の会社の持っている優れた技術を価値変換してワールドワイドに展開できないかというアプローチが重要だと思います。かつて iPod に使われていたカバーを作っていた新潟県燕三条市の企業がありますが、アップルの研究員が数十人日本企業を調査し、燕三条市に素晴らしい鋳造する技術があると発見し、コラボレーションして一躍世界にビジネス展開することができた事例もあるのです。アプローチの仕方としては世界間の競争に勝ち抜くために、新しい付加価値を生み出すような企業の創出をやるのは前提条件にしなければならない。地域発信型で世界に対して勝ち抜くかは一番の基盤になり雇用を生み出すことになるので非常に重要だと思っています。あとは、そのような基盤が出来上がってくると、全世界から有識者があつまり、必然的にその中に会社も生まれてきますので、そういったまちづくりをすればいいのではと思います。国際化という観点での捉え方は重要だと思います。

会 長 ありがとうございます。置賜企業の技術は相当なものがありますから、それを集約できればいいですね。

委 員 労働力人口が不足し地域経済が縮小していくという課題を受けまして、目指すところは、雇用産業の中で様々な施策を打ち出して展開していくことですが、労働力人口が減る中で付加価値を高めていくとなると、産業の担い手となる人材を、国際的にも通用できる高い技術と知見を持った人材に育てていくことが必要であり、雇用施策の中で多様な働き方ができるまちにするには、そういった能力をもった人材を育てていくことを目指していければと思います。

会 長 ありがとうございます。産業人材の育成となると柱2でもそこまでも触れていないですね。もし入れるとしたら、雇用のところですかね。

委 員 柱1にある「観光」がさらっとしている気がします。もっと力を入れてやって

いく表現になってほしいと思います。歴史、温泉、米沢のABC等と従来の観光振興を取り組みとしていますが、これからは常に話題作りをして、活気があって何でも一生懸命やっているPRをすることによって人が集まって、集まることでお金もまわり、みんなもやる気が出るという、そういったベースの記述もそうなのですが、米沢といえば一般的には観光で魅力があるまち、行ってみたいまちにいかにか持っていかと考えると従来の観光振興よりもう少し力を入れた表現にして、大きな位置を占めたほうが良いと思います。

会 長 確かに、「目指すもの・具体的将来像」にも交流人口の拡大と一項目しかないですね。こういったところをもう少し項目を増やしたいなと感じますね。委員からいいアイデアありませんか。

委 員 山形県のプロサッカーチームのモンテディオ山形が現在J1に昇格できるかという順位に位置しており、天皇杯では決勝戦まで勝ち上がっているのです。モンテディオは県全体のホームタウンにしているチームなので、観光の部分に「見るスポーツ文化の醸成」を入れてもいいのではと思います。スポーツは行うものとしての施策が多いですが、まちづくりや観光でも使える面はありますので、せっかく県内にいいソフトがあるので、米沢としても観光資源を取りに行くようにやっていけばいいのかなと思います。これがうまくいけば商業でも活用できると思います。ホームゲームはお祭りのような盛り上がりがありJ1では年間9試合、J2だと年間11試合ホームゲームがあるのです。その際はサポーターが全国から集まりますし、平均7～8,000人規模のイベントが隔週で行われるとなると、相当商業や観光分野でもいい影響があるのではないかと思います。この部分での観光強化ができれば従来以外の力を得ることができるのではないかと思います。

会 長 見るスポーツという表現は活用していただければと思います。

委 員 参加型の観光という項目も入れたほうが良いと思います。今まで市が行っているスポーツイベントでおしよしなマラソンがありますが、市民が沿道に出て応援できるコースではなく、松川河川敷をコースとして利用しているため、関係者しか見ないイベントとなっています。これを参加型の観光とすると、既存でしてきたイベントがもっと観光資源として生きていくのではと思います。

会 長 ありがとうございます。それでは続きまして柱2について御意見を頂戴したいと思います。

委 員 教育分野ですが、国際化に対応できる人材を育てていただきたいと思います。そのためには国際交流に行政が関与する等、留学したり海外から人材を呼び込んだり、山大留学生と交流するなど、小さいうちから国際化を視野に入れた教育をお願いしたいと思います。また、学園都市に大学を活用したまちづくりや卒業した大学生の地元定着率とありますが、私は地元高校から地元大学への進学が多いと思っていないので、地元大学への進学率を高めていくことも必要だと思います。効率的に学力が見につく教育力の高いまちとありますが、教育力の高いまちは、どういう数値が出ていけば評価が高いのか頭に入れて目指していただき、その中に国際力や地元大学進学率を高めるといった目的も入れていただきたいと思います。さらに、都会に進学し、企業などに就職し、それぞれの業界でリーダーシップが

取れる人材になって、米沢を盛り立ててくれるような人材を育てていくことが必要だと思うので、単に郷土愛を育成するのではなく、別の視点を入れた方向性を入れていただきたいと思います。また、文化ですが、新文化複合施設を文化の発信・教育拠点を柱として地域の活性化を図っていただきたいと思います。

会 長 山大工学部としても地元からたくさん進学してほしいのですが、センター試験でくくられてしまいますのでなかなか難しいです。地元枠はありますが、県内工業高校卒で将来県内就職を確約する生徒を募集するAO入試の取り組みはありましたが定員数が少なかったです。できれば地区の一般校から工学部を見てくれるとありがたいですが、今の教育環境は偏差値で切られてしまいますので、センター試験の点数が基準となって進学校が決まってしまうというシステムですので、地元学生が入ってこないのが現状です。どこかで断ち切らないといけないと思っていますが難しい課題です。他に御意見ありませんか。

委 員 3週間ほど前、山形工業会の代表として来年山形で開催される日中観光サミットの事前レビューで台湾に県知事と行ってきたのですが、台湾には国際交流をやっているセクションがあり、世界でもトップクラスの国際人材を育成しています。なぜ世界に通用する人材が育成されるかという、貿易事務人材教育というものを行っており、7,000人規模の人材を育成しているそうです。徹底的に人材育成をし、国際ビジネスや語学力や経済学などあらゆる教育を2年間育成して世界に通用する人材を作り上げるプログラムを台湾が国を挙げて取り組んでいます。台湾の企業の方と話しますと、語学力も優れ、世界的な規模で物事を考えるスタイルです。これを米沢に例えたらどうかと言いますと、小規模でも国際的に通用するような人材育成プログラムを作って、ビジネス的な観点や工学的な観点から物事を見る目を養わせるなど、計的な知識を植え付けさせるプログラムを作るべきかと思っています。

会 長 工学部内の大学院のMOTでは国際人材育成を行っているので、そこを学部からやっていければいいと思います。

委 員 学園都市に市内3大学があるわけですが、学園都市と言った場合において、高等学校の位置づけはどうなるのでしょうか。さらに、大学と地域の連携推進という文言がありますが、高等学校や小中学校はどうなのだろうという思いがあります。その辺についてお聞きできないでしょうか。また「目指すもの・具体的将来像」に大学を活用したまちづくりとありますが、高等学校や小中学校はなくてよいのかなと思いました。確か、米沢商業高校では国際化をねらった取り組みもったと思います。

委 員 前回、会社の話をしていましたが、NECのパソコンは米沢で作っております。開発者が300人規模います。世界トップクラスです。事業のスタートは、米沢商業高校と米沢工業高校の卒業生を数十名採用して、パソコンに入っている回路をマスターさせてからのスタートなのです。私の部下は市内高校出身者が多いです。大学を出ないと世界に通用する技術が作れないかというそうではなくて、スペシャリストに育てるプログラムがしっかりできていて、方向性を見出してやれば世界に通用する技術を保有したり発信したりできると思います。それがあつたか

ら今米沢に開発部局が残っているのです。つまり大学だからということではなく、実践的にやっているというのは実例としてお話しします。

委員 小中学校、高校の施策への取り組みはどうなのかという思いはありました。結局は郷土愛の育成で地元若者を定着させて、Uターンさせ、若者たちが戻ってくるような流れなのかなと思って、郷土愛の育成に凝縮されていると思いながら、もっと具体的なものがあればいいかなと感じました。つまり、郷土愛が生まれるのは、郷土を知ることであり、知るためには街中や町内を歩いたり遊んだりすることで郷土を知って、そして郷土の良さが分かって、それが思い出につながって初めて米沢はいいところだな、では米沢のこの企業に就職しようかなとなるのだと思いますし、諸事情で米沢にとどまれなくて県外に出てしまっても米沢に戻ってこようかなという流れになると思います。やはり定住人口の確保というテーマに基づいて課題や方向性が一点集中して書かれているのだなという感想を持ちました。郷土愛の育成は大事ですが、小中学校について具体的にあっていると思います。また、効率的な学力が見につく教育力が高いまちとありますが、地域の力を活用した教育の推進というのは、地域の人たちによって子どもたちが見守られ、教わりながら、地域で子どもを育てていくという考えだと思うので、効率的に学力が見につく教育力ではないのではないかと思います。確かな生き抜く力を育てるという意味合いではないかと思います。さらに、課題の2つ目に、就職により米沢を離れることが前提と書いてありますが、これはアンケートから来ていると思うのですが、この「前提」は本当にそうなのか、これはいわゆる希望として書いてあるのではないのかと思います。前提ではなく「傾向」ではないかなと疑問に感じました。先ほど他の委員からも国際教育の話が出ましたが、諸外国に目を向けるということは、地元米沢や日本のことがよく分かって、初めて国際分野に目が向くということだと思います。そのためにも、地元のことをよく知るこの大切さが基盤になっているのかなと思います。

会長 一度整理が必要になってきますね。大学と地域の連携推進のところがもう少し具体化すればいいのでしょうか。

委員 皆さん学園都市にどういうイメージを持っていますか。

会長 高校や小中学校も含めて学園都市ではないかということですね。

委員 大学の近くに住んでいますが、学園都市の感覚を持ったことはありません。

会長 米沢には学園都市推進協議会があるわけですので、委員より詳しくお話しただければと思います。

委員 今から20年近く前に学園都市推進協議会を設立したのは、当時山形大学に統合化の動きがありまして、山形市に山形大学のすべての学部を統合させるという動きがあったので、それに対処すべく設置しました。工学部には独自の学校の歴史がありますが、それまでは何となく大学があるという市民意識でしたので、市民がもう少し大学に関心を持ち、大学の研究に参加したり協力したりして、学生・先生をもう少し大事にしようという趣旨で出来上がったものです。おそらくその当時の試算で4,000人強の人口が大学関係者でした。今でも人口の5パーセント以上が大学関係者です。この率は県内ではおそらくトップだと思いますし、全

国的には仙台と京都が大学関係者の比率が高いまちとして有名ですが、米沢はそれに次ぐと言っても間違いではないと思います。米沢青年会議所が調査したところ、博士号を持っている人口に対する割合が日本一の時代もあったそうです。今もそうではないでしょうか。都市規模が小さいにもかかわらず、山大や短大、栄養大の先生は博士号を持っていますし、小さいながらも数字を見ると学園都市ですので、もう少し情的な触れ合いをしようということで大学側も門戸を開いていただいております。山形大学のことにつきましては、会長から発言していただいた方がよいのではないのでしょうか。

会 長 山形大学の統合問題が出た時に、工学部教授会では採決しませんでした。教授会では一切投票しないということを決めて、結局大学が統合をしなくても運営できることも理由としてありましたし、米沢市からは相当の援助をいただいているわけですから、今さら市から出ていくのもおかしいということになったのでした。先日お話ししましたが、その当時に山形大学工学部の経済効果が55億円と言われていたのです。大学教員が国から給料をもらって米沢市で支出し、学生も仕送りを米沢で使うわけですので、20年前に55億円だったものが市外へ出ていくことは一大企業が出ていくことと同じことで、もっと大学を拡大して、例えば市民の大学関係者が占める割合を10%まで高めるような学園都市というのがいい方法なのかですが、海外には2万人の都市に1万人の学生がいて、残りが市民という街がありますけれども、米沢もそんなシステムができると面白いなど考えています。皆様、是非工学部を活用してくださいと様々な場をお願いしています。一般の人と話すとき中々敷居が高く入れないと言われても、皆様も大学を嫌わず仲良くしていただければと思います。

委 員 卒業生の地域定着率を向上させるという文言は、私が発言した話ですが、学園都市という意味で発言したわけではなく、毎年1000人規模の卒業生がいて、20%が県内に定着し、米沢だけだと2%程度の定着率だと思います。工学部で見ると400人位いるのでしょうか。いずれにしても人口を増やす手段は二つしかないです。大学生などの外から来た人間を定着させるやり方と、外から人を引っ張って来るというやり方です。人口はどんどん減っていく中で考えれば、米沢に住んでいる学生を定着させるのが手っ取り早いです。仮に卒業生の20%を定着させれば雇用を生みますから、定着させるためにどうしたらいいかという話をしたのですが、その時には必ず雇用を準備することで、結果的に工業に結び付きますよと前々回お話ししたのでした。米沢で就職できる雇用を生み出す、先ほどの工業のところベンチャー企業を創出するとありますが、まさにそうです。若者がチャレンジできる環境づくりをいち早くやるべきだと思います。そうすると定着率は上がりますから、人口が減ることへの対策はできると思います。日本では事例はないこともできる可能性はあります。

会 長 是非、米沢の特殊解としたいですね。

委 員 学園都市に関して、市民側の意見しか載っていませんが、学生に聞くと、必ずしも住みよい学生生活ではないという意見が多いです。学生にとって米沢は楽しいまちではないし、いいまちではないし、学校周辺の環境はよくないのです。学

園都市という名前で売り出す場合には、学生にとってもいい環境でないといけないなと思います。南部地区の人口15,000人のうち学生が4,000人います。そんな環境にも関わらず、学生はあまり喜んで住んでいません。

会 長 　だから、我慢強い学生が生まれるのかもしれませんが。工学部のために貴重な御意見ありがとうございます。

委 員 　教育文化のまちとありまして、市民憲章にも同じ文言があるのですが、教育と文化は分けたほうがいいのではないかと考えております。ただ、山形大学教育学部も地域教育文化学部と名前も変わりましたし、教育と文化はくっつけたままでいいのかなと素朴な疑問を抱いております。また、自立心、チャレンジ精神の育成の前に、まちづくりのところにありますが、小さい頃から自分ができることやまちづくりにする自立心、チャレンジ精神の育成とした方がいいのではないかと思いますし、郷土愛のところも米沢のために貢献するという熱い心を持った郷土愛の育成としてもいいのではと思いました。

会 長 　一般解ではなく特殊解に持っていくには米沢という言葉を入れたほうがいいのかもありませんね。では次に柱3について御意見お願いいたします。

委 員 　コミュニティ環境のところで、ほとんどが守る項目しか出てきていないので、新たな価値を生み出す攻めのコンパクトシティとかコミュニティとか前を目指すような項目があってもいいかなと思いました。

会 長 　守りに入ってしまったということですか。攻めのコミュニティとは具体的にはどんなイメージですか。

委 員 　今までのコミュニティと違った新しいコミュニティの作り方を、攻めのコミュニティと表現したのですが、コンパクト化だけをしてダメなので、コンパクト化イコール近隣広域の市町村と合併ではなくて、交流するように攻めていけるコミュニティづくりも必要でないかなと思いました。例えば、交通の交流とか、情報のやり取りなどあると思いますが、そういったものを活用しないと地域が縮小して成り立っていかないと思います。具体的にお話ししますと、コミセン同士の情報が市民に伝わらないのです。他のコミセンで何をやっているかが、広報に掲載されること以外分かりません。せっかくコミセンという単位があるのに活用がされていないのかなと思います。

会 長 　他にありますか。

委 員 　交通基盤ですが、地域資源や課題のところに冬期間の移動インフラ、高齢社会に対応する交通手段の確保と書いてありますけれども、それに対応する「目指すもの・具体的将来像」の中に、冬でも快適に暮らせるまちというところを、もっと具体的に示していただきたいと思います。社会福祉協議会が地域の市民と話をすると、市民が抱える3大課題は移動手段と雪対策と買い物です。この移動の部分については、今回山上地区でデマンドタクシーの実証実験を行いました。周辺地域でも広がりを見せてほしいと思いますので、もう少し冬でも快適に過ごせるまちの表現を具体的にしたい方いいと思います。

会 長 　例えばデマンドタクシーを一つの例として、ここにいい文章があれば埋めてほしいですね。後程でも結構ですのでメール等で御意見いただければと思います。

委員 自然環境の部分について、農業をして感じることは鳥獣の被害がありますが、自然環境の観点から申し上げると森林環境が変わって鳥獣が街中まで出てくることが原因なので、森林等の良好な自然環境の保全を目指すには、結局人的な問題なのかどうかというところがある。もう少し自然環境の保全に関しては踏み込んだ表現があってもいいと感じました。良好な自然環境の保全でひとくくりにするには難しいと感じました。

会長 何かいい表現はありませんか。

委員 例えば、農業の土地であれば、農業者と地域の人で集落的に草刈りなどの取り組みを昔からやっている。森林となると、土地の所有者だけでの対応というわけにはいかない問題だと思いますし、果たして森林はこれからどうしていけばいいのかなと感じる部分はあるので、この部分に何か皆さんから良い意見があればと思います。

会長 何か良いアイデアをお持ちの方いらっしゃいませんか。良好な自然環境の保全だけだと、何をもって良好とするかということがありますね。事務局で何かアイデアありませんか。

事務局 全体的に見て項目が少ないところがあります。事務局では今までの審議会等でいただいた御意見を横につなげて並べたところなのですが、今日御意見を頂ければ再度入れ込みさせて頂きますし、課題として挙げて頂いたものについては次回までに事務局で検討し、御提案させていただきます。

会長 メール等でお送りしてもよろしいですね。

事務局 こういう視点も入れて頂きたいと御意見があれば、事務局で案を作成いたします。

委員 自然環境の部分ですが、自分も年を取ってくると、今まで興味を持たなかった野菜づくりや温泉巡りをしてみようかと思うようになりました。そういった自然との関わりを求めて米沢を巡るようになったのですが、巡ってみて思ったのが、米沢には都心の友人を米沢に連れてくると驚かれるくらいの豊かな森林資源や温泉資源があります。しかし、天童温泉で行っているような、昼食付日帰り温泉等の取り組みは小野川温泉でも白布温泉でもやっていないのです。また、これだけ豊かな森林や里山があるので、木を伐採して再生利用しようとする運動はしているけれども、米沢にはペレットストーブの展示会場はあるものの購入できるお店がなかったり、普及したり積極的に施工していこうという業者も少ないように感じます。あと、野菜づくりをしたいと思って数年前に市民農園を利用したことがあるのですが、週末農業から始まり、小さい庭でやるよりは大きいところでやってみたいと思っても、市民農園は非常に応募率が高くて、やりたくてもやれない人も多いです。対外的に人を呼び込もうというのも大事ですが、私たち住んでいる地元の人間がもっと自然を楽しんだり、農業を楽しんだり、温泉を楽しんだりしようと思ってもなかなかできない状況です。そうすると、魅力のあるまちや幸福感を抱けるようなまちというところまで市民が思えないのかなと感じます。加えて、観光でいえば、先日のなせばなる秋まつりで取り組まれたワンコインの丼があったかと思いますが、地元の人が食べても、500円を払った値段相応の

味に感じられない丼もありました。また、食べ物でいえば、先日あるお店に売っているもやしを見て、地元産だと思ったら中国産ということもありましたし、観光土産店の販売品の半分以上が市外で作られ、街の中心部で売られていることもあるのです。もっと私たち市民が本当に楽しんだり喜んだり、あるいは利用できたりするような、豊かな自然や食べ物を足元から見つめ直して、私たち自身が人に勧められるように自然環境や観光を絡めてやって頂きたいなと思います。

委員長 やはり我々市民が楽しめないようなまちでは他人には勧められないですよ。確かに今の御意見のように、市民が本当に楽しく暮らしているところは、他所からの人も行ってみよと思うのは間違いないと思います。お祭りの例で言いますと、私は各地の祭りに行きますが、そこの中の人たちが楽しんでいるから他所の人が行って祭りを体験したいとなりますので、食べ物とか温泉とか米沢の良いものをブラッシュアップしてさらに良いものという前向きな取り組みをすれば、さらにPRできると思うので、これを方向性や将来像に入れるのは賛成です。

委員長 ありがとうございます。他にございますか。

委員長 先程高齢者のデマンドタクシーのお話がありましたが、私からも交通基盤についてお話しします。現在私は中高生の子育て世代で、米沢に来て15年経ちます。米沢は中学までは地元の学校に行くので家から近い地域内での活動ということになるのですが、高校に進学した時から各地域から離れて行動するようになるというのが当たり前となっています。冬になると、どこの高校に進学するにしても親が学校まで自家用車で送迎する状況になりまして、冬は朝から雪かきをし、お弁当を作り、子どもを学校に送る生活の流れになっていて、循環バスやバス停まで送るという保護者の方もいますが、送迎されることで親からの自立が出来ないなと私は思っています。都心の子どもは小中学校から自分の家から公共のバスや電車に乗って登校するのが普通のことですけれども、米沢では冬になったらそういうわけにはいかないので、その違いを考えても、子どもたちは高校時代から雪が降ったら不便なまちだと思うようになり、将来自分で雪かきをしてお弁当を作って学校まで送って、かつ会社に行くと考えたら、もうこんな大変なところに将来いたくないというような声を聞きます。私が少年団の指導するようになった当時の子供たちが現在25～6歳になっていて毎年同窓会に呼んでもらうのですが、ほとんどが米沢にいないで、雪のないところが良くて市外で働いているそうです。高校生の頃から雪が大変だと思うばかりではなく、楽しいまちでこれからも米沢に残って生活していきたいと思えるような日を迎えられるように、わずかなことなのですが、朝だけでもいいので通学バスや遠い地区からまちに出るようなバスの整備を高齢者だけではなく若い世代に対してもやってもらえると、親の苦労を見て地元に残ろうと思わず、大学進学後に帰ってこないということにならないと思います。これは教育のところにも入ってくるのかなと思うのですが、中学校までは手厚い教育を受けていると思いますが、その後も私としては大事なことかなと思っています。

会長 先ほど大学生をもっと大事にしなきゃいけないという話が出たのと同じように高校生を大事にしていけないのではないかという感じはしますね。米沢工業高校に

通う高校生が、雪で埋もれてしまっている道路を泳ぐように渡っている姿を見たことありました。とにかく高校があまりにも周辺に分散しすぎているというか、これは今でいうコンパクト化しようとしているのと逆行した形になっているので、ぜひ高校生も大事にしてほしいなと思いました。やはり交通基盤がちゃんとしなれないといけないのだらうと思うのですが、私は過去に県立置賜総合病院に診察に行かなければいけないことあったのですけれども、米沢から直通のバスがないのです。市立病院やまちの病院に行くと紹介状を書いてもらって県立病院行ってくださいという言い方はされるのですが、車を運転出来る人以外はどやうやって行くのだらうと考えさせられました。そういうようなこともありますので、是非その問題などを解決して10年後には素晴らしいまちになってほしいなと思っています。

続いて4番目の柱は、すこやかな暮らしと安心な暮らしを支え合うまちということで「安心安全」というのがひとつのキーワードとなっていると思います。総合的な安心安全の「目指すもの・具体的将来像」が全く空欄になっていますので、例えばこんな視点から目指すものを考えてはどうかという御意見を頂ければと思います。

委員 私が入りまでの会議で申し上げたのは、防災やエネルギー問題について今後50年を見据えた前提のもとで挙げさせて頂いたわけですが、地域の防災システムの設定や安心安全の徹底は、もう少し大きい目標でいいのかなと思いました。活火山の問題等も県内でも一段と取り沙汰されていますので、身近に起こり得る喫緊の課題として、どの分野に分けるかの問題はあると思いますが、もう少し強い目標を打ち出してもいいのかなと思いました。また防犯・交通安全ですけれども、課題として子どもの安全を守ると書いてありますが、市内の歩道や県道はだいぶ交通安全対策としまして通学路の整備も進められているようですけれども、場所によっては十分な通学路が確保されない場所もありますので、インフラの整備等も押し進めなければいけない部分ではないでしょうか。

会長 ありがとうございます。他にお気づきの点とかありましたら。

委員 子育て環境のポイントにおいてぜひ加えて頂きたいのが、育児休業の取得と授乳時間取得率の増加という部分を視点として入れて頂けたらと思います。育児休業の取得状況のはっきりとした数字は分かりませんが、私が保育現場にいて見る限り少ない状況です。出産前に就労期間が終わってしまうという方も見られます。また、授乳時間というのは実際やっている企業は少ないと思いますが、一日に1時間、満一歳までの子どもがいる親に取得できる制度です。この授乳時間も取られている方は少ないです。子どもと関わる保育所に勤務している保育士ですら取れておらず、授乳時間制度を設けていない園もありました。商業部門等の企業側からすれば、出産を控えた女性や小さい子どもを育てている女性は即戦力にならないと思われがちなのですけれども、社会として子どもを生み育てる若い女性や小さい子どもを抱える女性は邪魔なのかといったらそうではないはずです。やはり守らなければならない存在であって、守れなければなおさら出生率も上がりませんので、利益としては下がるかもしれないですけれども、ぜひ社会として大きな視点で子どもと関わる若い世代の女性の就労ということに力を入れていただき

たいと思います。家庭を持って自分が子育てをして、仕事と両立させて、ようやく一人前なわけですが、その両立のハードルが高いために若くして結婚出産することが難しいと感じているように思われます。子育て環境を良くするための視点を具体的に、育児休業の取得と授乳時間の取得率向上を図ることを打ち出していけるように理解を求めたいと思います。また、まちづくりの視点でお話しすべきでしたが、子育てを楽しむまちですけれども、幼児期・学童期の家族を見ていますと、休日は家にずっといるわけではなく休みだからこそ出かけたいたいのです。中学・高校の子どもを誘っても行ってくれないので、幼児期・学童期だからこそ一緒に家族の思い出が作れるのですが、市内で楽しめる場所がなく遠出をしているという話を聞きます。米沢の特徴である雪がありますが、冬場の子どもの運動不足も課題として考えられています。市内には多目的運動場はありますが、どちらかという中学校以上の部活等が対象ですので、幼児期・学童期の子どもたちが冬期間屋内で活動できる施設が市内にはないのです。幼児期・学童期にポイントを絞ることは若い親世代も巻き込めるので、そこに力を入れることは効率的だと思います。

会 長 ありがとうございます。米沢にはわくわくランドがありますが、ドリームランドという屋外大規模遊具施設等設置とあるのは南陽市でしょうか。

委 員 はい。当園では遠足のコースとして重宝しております。

委 員 東根市には屋内施設があります。

委 員 東根市の施設はいいですね。あのような施設がほしいですね。

委 員 福島市にもサンドパークという施設がありますよね。

委 員 そこは屋外施設なので、屋根が付けば屋内施設としても楽しめますね。

会 長 先ほど委員がおっしゃったように市民が楽しめる場所がないとダメだということですね。そういう視点で考えていけるといいですね。

委 員 子育て環境のところで、子育てをするところから始まっていますが、環境としては、産まれた時からではなくて、結婚して、妊娠して、出産して、子育てに一貫して支援するというまちづくりの観点を入れたらいいのではないかなと思います。世界的に見ると女性の就業率が高い国ほど出産率も高いので、一貫した支援をしていかないと、生まれてからだけの子育て環境と言ってもうまくいかないと思います。

会 長 結婚からの流れとしてですね。他にありますか。

委 員 総合的な安心安全のところに、最初会長からお話のあった広域について、地域全体の情報交換や助け合いの連携プレーを常に取り組みするところを、ここで入れるのがいいと思います。そして、目指すもの将来像は、防災システムが完成して普及するということになるのではないのでしょうか。防災システムの普及はニュース等でよく見かけるような、様々な災害に対して予行演習しシミュレーションすることで有事の際に備えられるようになるのではないかと思いますので、米沢も関心を持っていく時代が来ると思います。街だけじゃなく色々な地域とのつながりを持って助け合いができるようにしておかなければならないし、他所を助けることで自分たちも学べると思いますので、その意識は入れておいたほうがいい

いと思えました。

会 長 そうすると、置賜の3市5町喜びますね。ぜひ入れたいですね。他にいかがでしょうか。

委 員 食育の推進ですが、食育というと子ども等若年層に郷土料理を食べさせといった視点があると思うのですが、保健・医療・福祉の連携や生活習慣病予防がありますので、大人の食育も大事だと思います。特に糖尿病に罹患した方が、自身に症状がないので何も治療せずに重篤化すると、結果透析して一人あたり年間何百万の医療費がかかることとなりますので、例えば禁煙教室を開くとか、食べ物の取り方の勉強会を開くとか、分煙の推進をして喫煙環境をしにくくする社会システムの作り方とかを入れ込んでいただくと、全体的に保健・医療・福祉の分野が底上げされるのではないかなと思います。あと、ギャンブル依存症もありますので、パチンコ等の遊戯施設の建設を規制する文言が具体的将来像に入ってくると、もっといいまちづくりになるのではないかなと思います。具体的な景観を保持するための条例等も必要だと思います。

会 長 他にいかがでしょうか。

委 員 総合的な安心安全に食と書いてありますよね。新潟県に絶景露店風呂日本一に選ばれた里山十帖という旅館がありまして、これは自遊人の編集長が南魚沼に旅館を作ってみようとトライしたものです。ここに行ったことがあるのですが、出す料理は田舎料理しか出ません。我が家で食べる田舎料理と同じだったのですが、その旅館には東京からたくさんの客が来ていて、予約が取れないほど人気があります。露天風呂も人気ですが、食が安全で郷土のおいしいものを出すことも人気の一つです。田舎の郷土料理を食べると体が健康になるという気持ちになるわけです。米沢はどうかというと、家で食べるのはこの旅館で出すような料理とほとんど同じ郷土料理なので、改めて安全だなと思います。食の安心安全という意味では、地元で採れる食材を使えばいいのかなと思います。

委 員 以前に会長にお願いして、米沢の食の源となる水を使ってミネラルウォーターを作りたいと御相談に行ったことがあります。その時に初めて知ったのですが、水が美味しければお米が美味しく、お米が美味しければお酒が美味しい、それは全て水が汚染されていないものという対外的なイメージが必要で、米沢でネックになるものが松川なのです。松川は山形大学が市から委託を受けて何十年来定点観測をしています。徐々に汚染を表す数値が改善されてきています。松川に魚を戻す会という団体など、松川河川敷を清掃するグループもたくさんありますし、そのような市民運動は素晴らしいことに継続されています。松川の水質改善等は時間のかかる問題で、イメージの問題がありますので、何十年とかけてきたことを止めて新しいことをやるものではなく、今までやってきたことをさらに加速させて、そこに市民が参加して市の中心部を流れる最上川の源流、松川をきれいにしようというのは、回り道のようなのですが50年・100年先の安全を勝ち得るものではないのかなと思います。安心安全と言葉で言っても、そういうイメージをもってもらえるかは分からないので行動で示さないといけないと思います。継続してやるのが大事です。この計画では今までやってきたことに甘んじてやると

いうことではなく、やってきたことを加速させ拡大させるという視点を入れていかないと、特に時間がかかるブランド化の問題、安全や安心のイメージ定着、景観形成は時間がかかると思います。

会 長 松川の水質データはすごい量です。山形大学の分析化学研究室でずっと採取しています。確かに数値は良くなってきていますがまだまだです。最近ではヒ素が問題になったりしていますが、分析技術がよくなって感度が高まってくると新たな発見も出ているようです。

委 員 総合的な安心安全は継続してやるのが大事だと思います。

会 長 間もなく終了予定時間ですが、皆さまよろしいですか。もう一度見直されて気が付いた点ございますか。直接メール等で事務局にお寄せいただいても結構です。では、これで審議が終わりましたので、事務局で今日の御意見を基にしまして中間意見書案の取りまとめを行います。次回皆様にお諮りするということでよろしいですね。それでは（3）その他について、お願いします。

委 員 一つインフォメーションです。商工会議所では今年度の経済産業省の事業を受託しておりまして、地域の大学生を地域の中小企業に就職させようという事業を積極的にやっています。そのメイン事業で、増田寛也さんをお呼びできることになりました。御存知だと思いますが、元岩手県知事で第1次安部内閣の総務大臣を歴任され、日本創成会議の座長をされ、安部政権のもとでまち・ひと・しごと創生会議の有識者メンバーであり、選択する未来委員会の有識者メンバーであり、マスコミの露出も高くなかなか呼べない方です。中公新書の日本消滅という書籍は20万部を超えたそうです。人口減少をどのように受け止めて、どのように地方が対処していくかということを論じている最先端にいる方です。期日は12月12日3時から4時40分まで東京第一ホテル米沢で入場無料ですが、事前エントリーが必要です。来られて方にはもれなく資料として中公新書の日本消滅を差し上げます。どこの自治体も呼びたい方筆頭の方ですけど、今回ご縁がありまして呼べることになりました。この審議会に非常に関係することですので御聴講していただきたいと思います。今ならまだ参加申し込みは大丈夫だと思います。商工会議所に電話いただいてもいいですし、名前だけエントリーしてくださっても結構です。

会 長 この審議会として、ここにいる全員がエントリーすることは可能ですか。

委 員 大丈夫です。会長にそのように言っていただきましたので、御都合がつかない方は事務局にお話し下さい。それ以外の方はエントリーしておきます。

会 長 では、この審議会全員参加ということで関係する方々是非御出席下さい。それでは事務局から次回審議会についてお願いします。

事務局 次回審議会の日程を御報告いたします。次回は年が明けまして来年1月16日（金）午後1時30分から会場は伝国の杜小会議室で開催いたしますので、あらかじめ御日程の調整等よろしく願いいたします。

会 長 次回は今回の中間意見体系の出来上がったものが案として提示されるわけですね。これは事前配布です。他にございますか。では予定時間で終わることができました。皆様の御協力に感謝します。今年最後の会議となりました、来年新たな

気持ちで1月16日お集まりいただきますようお願いいたします。これで審議終了といたします。

事務局 大変ありがとうございました。本日お忙しい中御出席賜りありがとうございました。これをもちまして第5回総合計画審議会を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。

(4) 閉会

以上